

大会会長特賞

石やがて雲となりゆく小春かな 神奈川県 佐野 典比古

選者特選賞

岡安紀元 選 紅葉且つ散るせせらぎに色移し 神奈川県 杉 美春

木村享史 選 湯煙の先は浄土か紅葉降る 神奈川県 長谷川 昭放

田丸千種 選 御神木の胸に神力神の留守 神奈川県 佐々木 重満

秋尾敏 選 石やがて雲となりゆく小春かな 神奈川県 佐野 典比古

筑紫磐井 選 どんぐりを四十路の娘に見せる父 群馬県 飯島 慶子

後藤章 選 喬木に柵をめぐらせ神の留守 東京都 丹羽 早苗

今井聖 選 朝市に体操の輪や冬日和 埼玉県 齊藤 眞理子

權未知子 選 湯の町の湯にある掟枯蠅螂 神奈川県 麻生 明

徳田千鶴子 選 もののふのこゑ潜ませて山眠る 神奈川県 高橋 千鶴子

伊藤眠 選 冬うらら皆触れてゆくご神木 神奈川県 八木 和子

大本尚 選 小春日や風なすまに恋の絵馬 東京都 山本 祐子

内藤ちよみ 選 「スイミー」の絵本置くカフェ散紅葉 東京都 佐藤 洋子

平田薫 選 石やがて雲となりゆく小春かな 神奈川県 佐野 典比古

なつはづき 選 小春風手湯に始まる旅ひとつ 神奈川県 坂口 和代

佐藤久 選 小春日や風なすまに恋の絵馬 東京都 山本 祐子

正賞

岡安紀元 選 もののふのこゑ潜ませて山眠る 神奈川県 高橋 千鶴子

木村享史 選 母をればみなゆつたりと小春の日 神奈川県 中村 時子

田丸千種 選 行く秋や足湯ほのぼの雲うつし 東京都 根本 たいこ

秋尾敏 選 万葉のおとろへもなし冬の滝 神奈川県 比留間 加代

筑紫磐井 選 風ゆれて母との会話小鳥来る 神奈川県 樋渡 裕子

後藤章 選 石やがて雲となりゆく小春かな 神奈川県 佐野 典比古

今井聖 選 石やがて雲となりゆく小春かな 神奈川県 佐野 典比古

權未知子 選 相聞歌よみといてある小春かな 神奈川県 高橋 千鶴子

徳田千鶴子 選 手に受くる木の葉天使の羽根のごと 岐阜県 高橋 治子

伊藤眠 選 駅見ゆる書肆の軒借る初時雨 富山県 北川 秀子

大本尚 選 ひらがなを書くやうに降るもみぢかな 埼玉県 大塚 雅彦

内藤ちよみ 選 冬ぬくし堂に小さき女下駄 神奈川県 武村 桂子

平田薫 選 ひらがなを書くやうに降るもみぢかな 埼玉県 大塚 雅彦

なつはづき 選 万葉の川音つなぐ冬紅葉 神奈川県 加藤 かほる

佐藤久 選 冬ぬくし堂に小さき女下駄 神奈川県 武村 桂子

准賞

岡安紀元 選 万葉の風に急され木の葉散る 神奈川県 日高 朝代

木村享史 選 冬天を押し上ぐ樹齢八百年 東京都 千明 素子

田丸千種 選 寒禽や拜殿の中覗きたく 東京都 向井 麻代

秋尾敏 選 五所神社神様九人出雲へと 埼玉県 原 瑞恵

筑紫磐井 選 イソツブのつづきはあした冬ぬくし 神奈川県 中村 時子

後藤章 選 大袋のみかんを抱え折りおり 神奈川県 小林 碧江

今井聖 選 原色の晩秋を噴くひとところ 神奈川県 麻生 明

權未知子 選 小春日や風なすまに恋の絵馬 東京都 山本 祐子

徳田千鶴子 選 薄原数多の声を持ち帰る 神奈川県 宮崎 悦女

伊藤眠 選 神さぶる楠に手をあて冬温くき 神奈川県 栗林 浩

大本尚 選 日だまりにしばし魂置く冬の蝶 神奈川県 川口 しのぶ

内藤ちよみ 選 湯の町の湯にある掟枯蠅螂 神奈川県 麻生 明

平田薫 選 湯河原は空気が旨い海山の四季彩々の匂い香し 神奈川県 木戸 廣吉

なつはづき 選 湯の町の湯にある掟枯蠅螂 神奈川県 麻生 明

佐藤久 選 小春日や狸に託す恋の絵馬 神奈川県 角田 智子

※入賞句一覧につきましては、パソコンで表示できない漢字は常用漢字を使用しております。ご了承ください。

岡安紀元 選

ほつこりと十一月の湯のけむり
大地にも空にも千の冬紅葉
旅人の二つほど買ふ蜜柑かな
川沿ひに狸三匹枯落葉
八百年生きて大楠雁渡る
万葉の彩重なりて柿落葉
おちばがねみんなにげてつちやうんだよ

木村享史 選

万葉の彩重なりて柿落葉
ひらがなを書きやうに降るもみぢかな
小春日や風なすまに恋の絵馬
天高し注連も古りたり大銀杏
御神木両手ひろげて冬茜
ほんのりと湯の香まとひて山粧ふ
湯の香る里の遠近冬紅葉

田丸千種 選

小春日や風なすまに恋の絵馬
サーフアのぐらりと冬の海光る
石路の花足湯を囲む歴大小
大楠の森しんしんと神の留守
おちばがねみんなにげてつちやうんだよ
万葉の歌神にかりねや秋の蝶
ほんのりと湯の香まとひて山粧ふ

秋尾敏 選

サーフアのぐらりと冬の海光る
冬草のかがよふ朝の送迎車
手水舎の湯のこんこんと冬ぬくし
温泉町午後には時雨てふ予報
立冬のダブルフォルトのごと日没
あしだけのおんせんにおちばがうかんでる
薄原数多の声を待ち帰る

筑紫磐井 選

紅葉かつ散る旅人にも足湯にも
ひらがなを書きやうに降るもみぢかな
枝折れし樹も黄落の時迎ふ
千歳川しぶきの舞は万葉歌
温泉町午後には時雨てふ予報
冬ぬくし堂に小さき女下駄
石やがて雲となりゆく小春かな

後藤章 選

相聞歌よみといてゐる小春かな
神木の女郎蜘蛛より糸光る
小春たまはる大楠に触れてより
神さぶる楠に手をあて冬温くき
2・26の光風狂騒いてふ散る
冬天を押し上ぐ樹齢八百年
湯気の出る排水溝や冬もみじ

今井聖 選

石段を登る内股落葉踏む
冬紅葉の一点を指す坂
万葉のひらひら古稱の我に似て
冬葉のおとろへもなし冬滝
瀬音にも色あるごとし冬紅葉
神木に冬越す力いたたく手
どんぐりを四十路の娘に見せる父

榎未知子 選

日だまりにししばし魂置く冬の蝶
冬草のかがよふ朝の送迎車
冬ぬくし堂に小さき女下駄
湯守りらし落葉まみれの狸古り
小春たまはる大楠に触れてより
大楠の森しんしんと神の留守
初冬や空掴み立つ御神木

徳田千鶴子 選

石路の花瀬音高鳴るひとところ
拝殿の鈴の高鳴り神の留守
紅葉狩声登り来る露の径
神さぶる楠に手をあて冬温くき
瀬音にも色あるごとし冬紅葉
万葉の言の葉遊ぶ風は秋
渾身てふ冬滝の声を統ぶ

伊藤眠 選

相聞歌よみといてゐる小春かな
湯煙の先は浄土か紅葉降る
大楠の森しんしんと神の留守
神苑の千年楠や秋寂ぶる
坂道の多き湯の町冬ざくら
金秋へ強く押出すシルバーカー
宿木にししばし仮寝の散紅葉

大本尚 選

神木に宿る言霊聞く小春
湯の香る里の遠近冬紅葉
冬天を押し上ぐ樹齢八百年
初冬や空掴み立つ御神木
瀬音にも色あるごとし冬紅葉
そこだけに風あるやうに落葉舞ふ
宿木にししばし仮寝の散紅葉

内藤ちよみ 選

ボケツトにいつもどんぐりねむつてる
冬紅葉今を輝くやうに生く
紅葉かつ散る言霊聞く小春
紅葉かつ散る万葉歌神を誦しをれば
アナログの世がやはり好き散紅葉
別れきて桜紅葉うらおもて
金秋へ強く押出すシルバーカー

平田薫 選

湯河原の海は平らか秋日和
サーフアのぐらりと冬の海光る
鳥声も風音も呼ぶ小春風
雨來ての晴れての露の紅葉かな
御神木両手ひろげて冬茜
おちばがねみんなにげてつちやうんだよ
冬うらら皆触れてゆくご神木

なつはづき 選

石やがて雲となりゆく小春かな
ボケツトにいつもどんぐりねむつてる
紅葉狩声登り来る露の径
神苑に雲啄むか鶴しきり
湯の里に俳徒溢れる小六月
湯の町に魚屋多し笑南天
渾身てふ冬滝の声を統ぶ

佐藤久 選

宿木に櫛をめぐらせ神の留守
小春たまはる大楠に触れてより
ハイヒール脱いで粧う山に入る
神苑の千年楠や秋寂ぶる
冬日影大黒天の大笑い
おちばがねみんなにげてつちやうんだよ
万葉の風に急され木の葉散る

平田薫 選

神奈川 杉美春
神奈川 堤 亜由美
神奈川 松本 広子
神奈川 今井 雅裕
神奈川 根本 たいこ
神奈川 八木 幸千
神奈川 和子

※入選句一覧につきましては、パソコンで表示できない漢字は常用漢字を使用しております。ご了承ください。